

5月

環境情報学部環境情報学科・宿谷昌則教授が、2012年日本建築学会教育賞を受賞

本学環境情報学部環境情報学科の宿谷昌則教授が、2012年日本建築学会教育賞（教育業績）を受賞しました。

日本建築学会教育賞（教育業績）は、長年の活動によって成果が認められ、建築教育の発展ならびに社会に顕著な貢献をした業績を表彰するものです。宿谷教授は、環境配慮型の建築とそれに応じたライフスタイルの形成を目指した住環境教育のプログラムを開発。それらのプログラムが、子どもから一般市民、建築の専門家など年代や職業を問わない幅広い対象を相手に実践されていること等が高く評価されました。

- *1) 日本建築学会ホームページ
(建築学会賞ページ)
<http://www.aij.or.jp/2012/prize2012.html>
- *2) 宿谷研究室ホームページ
<http://www.yc.tcu.ac.jp/~shukuya/>

住環境教育の実践



専門家むけ



一般むけ



小学校5・6年むけ



日射取得・断熱・蓄熱の模型実験

8月

中村研究室が、都筑区、図書館、地域グループらとともに「つづき街の記憶プロジェクト」のイベントを開催

(環境情報学部情報メディア学科) 中村研究室では、2012年8月28日(火)～30日(木)に都筑区総合庁舎1階の区民ホールで、区や地域の多くの市民グループと協力して、地域の歴史的な情報の収集と共有をリアルとICTを利用した多面的な方法で行うイベントを開催しました。AR(拡張現実)技術を使った「まちの絵本」やニュータウン開発当時のパネル群の展示、大きな地図を前に語り合うガリバーマップ、地域の歴史研究家をゲストに招いた公開トークイベント「写真を語る：つづき再発見」などが行われ、多くの市民が訪れました。

- *1) 中村研究室公式ホームページ
<http://nakamura-lab.sv.yc.tcu.ac.jp/main/htdocs/>
- *2) 都筑デジタルフォトアーカイブ
<http://tsuzuki-ac.sv.yc.tcu.ac.jp/>



ガリバーマップを前に生まれる交流



公開トーク・イベントの様子



AR絵本(中村研学生制作)

9月 増井研究室の森久美子さんが国際学会でYoung Scientist Awardを受賞

2012年9月7日(金)から10日(月)にかけて中国・成都で開催された国際学会「Asian Conference of Management Science and Applications (ACMSA) 2012」において、大学院生 森久美子さん(増井忠幸教授、郭偉宏教授の連名)の論文「A Research on the Promotion of Modal Shift」が表彰され、森久美子さんが Young Scientist Awardを受賞しました。増井忠幸教授、郭偉宏教授は「Best Paper Award」を受賞しました。



発表する森さん



表彰状

- *1) 増井研究室ホームページ
<http://www.yc.tcu.ac.jp/~masui-zemi/>
- *2) ACMSA2012
http://aamsa.org/index.php?option=com_content&view=article&id=57&Itemid=65

9月 諏訪研究室卒業生がプロトタイプコンテストでスマートフォンを活用したアイデアで優勝

ソーシャルゲームの運営とスマートフォンアプリやソフトウェアの提供で有名なKLab株式会社(クラブかぶしがいいしゅ)が主催し、2012年9月12日(水)~14日(金)に実施された第3回プロトタイプングラボ(応募者数:10チーム(計15人))において本学部情報メディア学科卒業生(諏訪研究室2011年度卒業)の小野澤清人氏がiPhoneアプリ「あるき対(あるきたい)」を作成し、優勝しました。

プロトタイプングラボは、3日間の競技期間のうち1、2日目でアイデアを形にしてプロトタイプアプリを作成し、3日目にそれらのアプリの発表を行って優勝者を決めるものです。小野澤氏は手軽に「歩行改善」をしてもらうためのiPhoneアプリ「あるき対」を作成しました。このアプリケーションでは「あるき対」をインストールしたiPhoneを腰に装着して歩くことにより地面を蹴り上げるときの動作で「良い歩き」かどうかを判別することができます。友達同士でどれだけ長く良い歩きをして歩数をカウントできたかをゲーム感覚で競うことができます。今回は本アプリのアイデア、技術力及び小野澤氏の発表力が高く評価されました。



優勝した小野澤清人氏



アプリ「あるき対」のPhone画面

10月 情報メディア学科の学生チームがESSロボットチャレンジ2012・飛行船ロボットコンテストの競技で1位、表彰されました

2012年8月18日(土)に東京都市大学横浜キャンパス学生ホールで、2012年10月17日(水)、18日(木)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された、ESSロボットチャレンジ・飛行船ロボットコンテスト(参加チーム数12)で、情報メディア学科小倉研究室の学生チーム(チーム名:ふわっと)が、「基本航行競技」(8月)および「障害物航行競技」(10月)の両競技で1位を獲得し応用競技優勝として表彰されました。

ESSロボットチャレンジ・飛行船ロボットコンテストは、室内用の小型飛行船を自動制御するシステムの開発を課題として、飛行内容や開発技術を競うコンテストで、ハードウェア、ソフトウェア、制御、計測を含めたさまざまな技術が必要となる組込みシステムの開発方法の研究や、システム開発を通じた実践的な技術教育・交流を目的とし、組込みシステムシンポジウム(情報処理学会組込みシステム研究会主催)の特別企画として開催されているものです。



賞状



ESS ロボットチャレンジ



都市大チームの開発した機体

11月 環境学部、メディア情報学部開設記念 第34、35回渋谷コロキウムが開催されました



2012年11月5日(月)、渋谷エクセルホテル東急プラネッツルームにて、2013年4月の環境学部開設を記念した公開講演:第34回渋谷コロキウムが開催されました。

今回のコロキウムは、新学部開設にちなみ、「環境とエネルギーの世紀を考える」というテーマの下、中村英夫学長の挨拶で開会。「日本の環境・エネルギー戦略」、「環境生態都市のデザイン」をテーマに講演が行われました。

続いて、2012年11月20日(火)セルリアンタワー東急ホテルボールルームにて、同じく2013年4月のメディア情報学部開設を記念した第35回渋谷コロキウムが開催されました。

「メディアとコミュニケーションの未来を創る」というテーマの下、メディア情報学部長就任予定である中村雅子教授の挨拶で開会した本会は、「10年後を見据えたメディアとコミュニケーションの創造」、「拡張現実メディアによるソーシャルデザイン」等をテーマに講演や鼎談が行われました。

両日とも会場の150席が満席となり、講演後には時間を押して参加者との質疑応答がなされるほど活気に満ちた講演会となりました。



中村学長による挨拶



講演の様子



環境情報学部 涌井 史郎教授

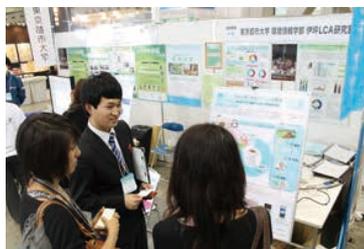
- *1) 渋谷コロキウム <http://www.tcu.ac.jp/lecture/seminar/index.html>
- *2) 環境学部紹介ページ <http://www.yc.tcu.ac.jp/envstudies/>
- *3) メディア情報学部紹介ページ <http://www.yc.tcu.ac.jp/informatics/>

12月 エコプロダクツ2012に出展しました

2012年12月13日(木)～15日(土)、エコプロダクツ2012(実行委員長:山本良一 本学特任教授)に環境情報学部の研究室・学生団体が出展しました。

会場では、「エシカル市場の未来」シンポジウムが開催され、実行委員長として山本教授、主催者として吉崎学部長が出席し、またパネラーとして中原教授が参加しました。また、フォーラムイベントでは「いっしょにつくろう、わたしたちのサステナブル・ライフスタイル」と題して、中原教授がファシリテーターを務め、学生と有識者が持続可能な未来について考えました。

伊坪研究室では、エコプロダクツ展の開催によって排出されるCO2排出量の算定を行い、来場者に算定結果の紹介を行いました。田中研究室では、ビオトープパッケージの展示を行い、失われた生態環境の回復方法についてパネルや実際の活動における経験を踏まえ、分かりやすく説明しました。ISO学生委員会は、日々の活動報告を行いながら、身近な環境活動の大切さを伝える展示を行いました。



2月 大自然の中での授業「アウトドアスポーツ（スキー・スノーボード）」

2013年2月4日（月）～8日（金）までの5日間にわたり、集中授業「アウトドアスポーツ（スキー・スノーボード）」が、岩手県安比高原スキー場にて行われました。環境情報学部を始め工学部、知識工学部、都市生活学部の全キャンパスの学生総勢86名が参加し、全学的な実習となりました。

天候に恵まれたこともあり、午前3時間、午後3時間の講習に加え、ナイターまで夢中で滑る学生がほとんどで、全身筋肉痛となって日頃の運動不足を実感していたようです。

夜のミーティングでは、講習中に撮影したビデオをもとに班ごとに技術指導が行われました。自分の滑りを初めてみる学生が多く、先生方からのアドバイスを熱心に聞いていました。

夕食はカニや牛タンステーキの食べ放題があるバイキングを堪能し、食後は露天風呂で日中の疲れをとり、部屋では学科を越えた交流がありました。

最終日に行われた全日本スキー連盟バジテストにおいては、スキーで1級に1名、2級に4名に加え、スノーボードでも合格者が多数出て、実習の成果が結実しました。

どの学生も滑りが飛躍的に上達し、スキー、スノーボードという身体運動を通して、達成感、充実感、共同生活のルール、自然との共生の大切さを感じたのではないかと思います。

今後、生涯スポーツに結びつくように、楽しく取り組んでいって欲しいと願っています。

<体育> 担当 久保



2月 第10回東京都市大学・都筑区役所地域連携調査研究発表会の開催

東京都市大学と都筑区役所の協働開催による地域連携調査研究発表会を、2013年2月27日（水）に行いました。今年度は、まず大学と都筑区による連携事業として、都筑区保健福祉課より大学生に向けた健康づくり啓発アプローチについての発表を、東京都市大学室田研究室佐藤氏より荏田南小学校での省エネ街づくりワークショップについての発表をしました。

次に、東京都市大学学生の研究発表として、合計8つの発表を行いました。環境分野として、塚川氏（M2、小堀研）より小規模孤立林におけるアカネズミの生息状況に関する研究、猿渡氏（B4、田中研）よりビオトープパッケージのメダカハビタット評価に関する研究、柿沼氏（M2、吉崎研）より都市内緑地の微気象緩和効果についての研究、田澤・平川氏（B4、咸研）から地下水における硝酸態窒素汚染のメカニズムに関する研究、遠藤・横田氏（B4、室田研）より公園愛護会の活動と連携や役割に関する研究、三田氏（B4、中原研）より環境モデル都市横浜における区との連携の発表を行いました。情報分野としては、太田・徳山氏（B4、上野研）よりサブカルチャー都市としての横浜の情報デザイン、長井氏（M2、諏訪研）よりスマートフォンによる高齢者見守りシステムの異常検出精度向上に関する研究を発表しました。

横浜市職員や都筑区住民、東京都市大学より多くの参加者があり、大変活発な意見交換が行われました。市役所職員からは、手法や基準の問題、計画への反映方法や実現に向けた課題、調査の活用方法などについて、市民からは、地域の実態や調査方法の問題、学生の意見などに関する質問や指摘がありました。発表者からは、大学では気づかない視点からの指摘が多く、参考になったとの意見が多く寄せられました。

